

「イワクラ（磐座）学会の創立記念大会」開催

5月15日、世界の巨石を研究する「イワクラ（磐座）学会の創立記念大会」が奈良県新公会堂で開催された。

大会には会員や市民など約370名が参加。これまでイワクラを研究する学会がなかったために体系的な研究が行なわれておらず、今般創立されたもの。

ピラミッドやストーンヘンジなど巨石構築物は形式にかかわらず、イワクラ（磐座）という呼び方で総称されている。奈良県では、山添村の「鍋倉溪」が巨石構築物。鍋倉溪は天の川一帯の星座を地上に投影したものではないかという説がある。

名誉会員の田中康夫長野県知事は、「従来の学会は机上のもの。イワクラ学会は従来とは違う。頭でっかちな形骸化したところを乗り越えた学会が奈良で発足するのは意義がある」と挨拶。

同学会会長の渡辺豊和・京都造形芸術大学教授が「新石器文明の構図」と題した記念講演で、「紀元前8000年にはイスラエルのエリコで都市が形成さ

れ、石造の望楼までできていた。すでに高度な石造技術をもっており、文明と呼ぶべき段階に達していた。これまで解明されなかった新石器文明の実体を究明したい」と決意を話した。（上田）



名誉会員の田中康夫長野県知事の挨拶

